



## 二十四節気（にじゅうしせつき）

二十四節気（にじゅうしせつき）は、今でも立春、春分、夏至など、季節を表す言葉として用いられています。1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けたもので、「節（せつ）または節気（せつき）」と「気（中（ちゅう）または中気（ちゅうき）とも呼ばれる）」が交互にあります。太陰太陽暦（旧暦）の閏月を設ける基準となっており、中気のない月を閏月としていました。二十四節気は、その年によって1日程度前後することがあります。

## 二十四節気

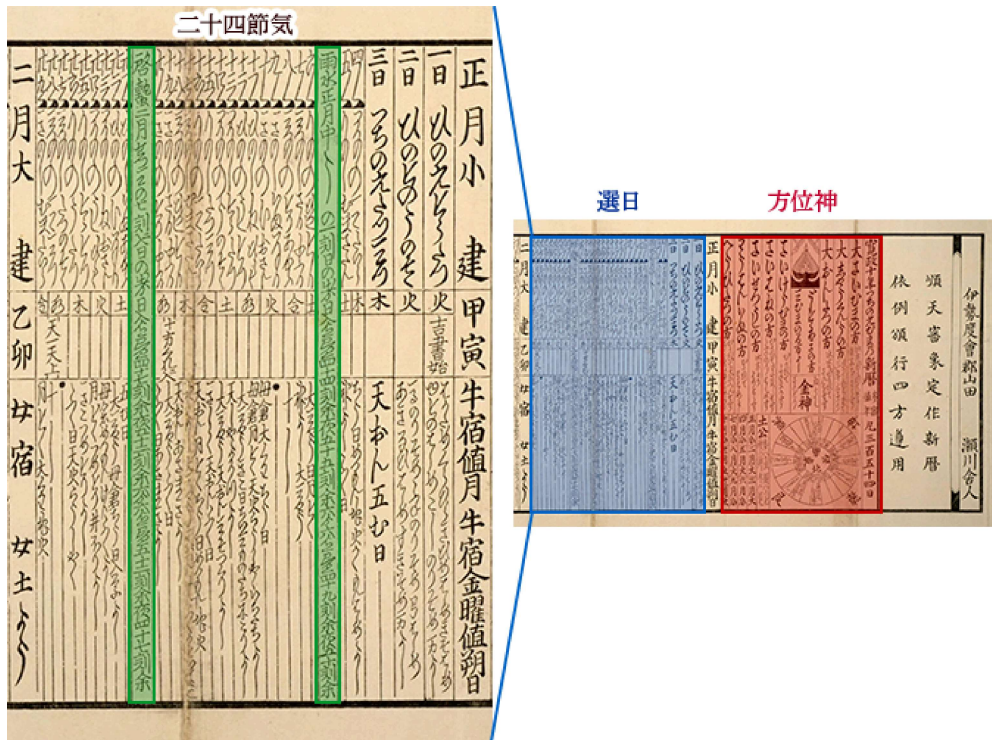
季節	二十四節気名	月	新暦の日付
春	立春（りっしゅん）	1月節	2月4日頃
	雨水（うすい）	1月中	2月19日頃
	啓蟄（けいちつ）	2月節	3月5日頃
	春分（しゅんぶん）	2月中	3月21日頃
	清明（せいめい）	3月節	4月5日頃
	穀雨（こくう）	3月中	4月20日頃
夏	立夏（りっか）	4月節	5月5日頃
	小満（しょうまん）	4月中	5月21日頃
	芒種（ぼうしゅ）	5月節	6月6日頃
	夏至（げし）	5月中	6月21日頃
	小暑（しょうしょ）	6月節	7月7日頃
	大暑（たいしょ）	6月中	7月23日頃
秋	立秋（りっしゅう）	7月節	8月8日頃
	処暑（しょしょ）	7月中	8月23日頃
	白露（はくろ）	8月節	9月8日頃
	秋分（しゅうぶん）	8月中	9月23日頃
	寒露（かんろ）	9月節	10月8日頃
	霜降（そうこう）	9月中	10月24日頃
冬	立冬（りっとう）	10月節	11月7日頃
	小雪（しょうせつ）	10月中	11月22日頃
	大雪（たいせつ）	11月節	12月7日頃
	冬至（とうじ）	11月中	12月21日頃
	小寒（しょうかん）	12月節	1月5日頃
	大寒（だいかん）	12月中	1月21日頃

また、二十四節気と同様に季節の移り変わりの目安となるものに雑節（ざっせつ）と呼ばれるものがあり、今でも行事などが行われています。

## 雑節

雑節	解説
社日 （しゃにち）	春分、秋分に最も近い戌（つちのえ）の日で、1年に2回ある。春には豊年を祈り、秋には成熟を祝う行事をそれぞれ行う。

節分 (せつぶん)	元は四季にあったが、後に春だけについていわれるようになった。立春の前日のことで、邪気を払う行事がなされる。
彼岸 (ひがん)	春分と秋分の前後の3日ずつの計7日のこと。初日を彼岸の入り、当日を中日(ちゅうにち)、終日を明けと呼ぶ。
土用 (どよう)	立春、立夏、立秋、立冬の前18日間。この期間は、土公神(どくじん)が支配するといわれ、土を犯すことは忌むべきこととされた。
八十八夜 (はちじゅうはちや)	立春から数えて88日目をいい、種まきの目安の日。
入梅 (にゅうばい)	二十四節気のうち、芒種の後の壬(みずのえ)の日。梅雨はそれから31日間とされる。
半夏生 (はんげしょう)	天より毒気を下す日という。夏至より10日後とされる。
二百十日 (にひゃくとおか)	立春から数えて210日目の日。必ず暴風雨があるとされる。
二百二十日 (にひゃくはつか)	立春から数えて220日目の日。二百十日と同じ意味を持つ。



吉凶を表す言葉④その他

和風月名